

## 枕にもならない手続要覧

かつては、その分厚いことと、読めば眠くなるほど難解なことから、「手続要覧」は枕の代用になると例えられてきたものですが、この度発行された手続要覧を拝見して、その先入観はまったく消え失せました。全ページ数 123 のうち定款細則 103 ページ、索引 10 ページを差し引くと本文は僅か 10 ページといった、週刊誌並みのお粗末限りないものであり、かつてどこかのパスト・ガバナーが例えた、ロータリーの「般若心経」とは程遠い代物となってしまいました。

日本のうるさ方に配慮してか、決議 23・34 だけは掲載されていますが、ロータリアンやロータリークラブを支援するために情報を提供するという RI 本来の目的はどこに行ってしまったのでしょうか。定款・細則やロータリー章典や理事会報告に記載されているから、重複して説明する必要はないと、考えているのでしょうか。それならば「手続要覧」などという大げさな名前から決別して、「定款細則集」で事足りたはずです。

RI の大きな役割の一つに世界上のロータリアンに情報を迅速に伝達することがあります。詳しい内容を知りたいければ理事会議事録やロータリー章典を読めばよいと考えて、それを英語のみで発信したり、非英語圏との間に大きな時間差を設けることはアン・フェアな行為です。

このような動きが一向に改善されず、奉仕に対する解釈も大きく変化していく現状を見るにつけ、日本人の感性に一致する真のロータリー運動に回帰する必要性を強く感じるのは私だけでしょうか。